

**まもなく大豆の収穫時期となります。成熟状況は、ほ場間差が大きい
ため、確実に刈取始期を見極め、適期内に収穫を終えましょう。**

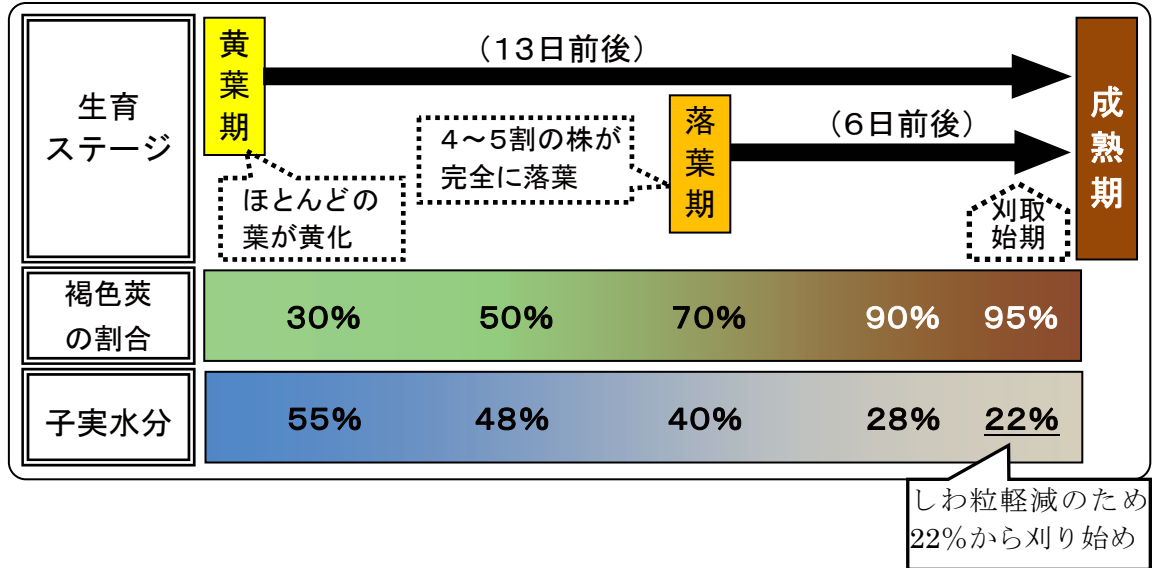
刈取始期の判定

～褐色莢割合から生育ステージを確認～

- ・ほ場毎の成熟期の目安をつけ、作業計画を立てましょう。
- ・莢の熟色を確認し、**ほとんど**
の莢が褐色になった頃(子実水分22%以下)から刈り始めましょう。

表 刈取始期の目安(エンレイ)

播種時期	刈取始期
～6月上旬	10/4頃
6月中旬	10/9頃



注意!

刈り遅れると、立毛中の裂莢等による収穫ロスが増加するとともに、しわ粒や腐敗粒の発生要因になります。茎の色みが若干残っていても、莢色を優先して収穫してください。

収穫作業

- ・汚損粒防止のため、**収穫前にイヌホオズキ等の大きな雑草や青立株を必ず抜取る**とともに、**土をかき込まないよう刈取り高さは地際から10cm程度**に調整しましょう。
- ・収穫時刻は**午前10時～午後4時**を目安とし、**莢が乾いていることを確認**してから行いましょう。
- ・**作業速度は0.5m/秒(1.8km/h)程度**とし、大豆の生育量が大きい場合は更に速度を落とすなど、コンバインのつまりを防ぎましょう。
- ・黒根腐病が発生したほ場は、病害の蔓延を防ぐため別刈りするとともに、収穫作業後はコンバイン等を洗浄しましょう。



イヌホオズキ

乾燥・調製

- ・急激な乾燥は、しわ粒や皮切れ粒等の発生要因となります。機械乾燥する場合は、送風温度を「**気温+5℃以内**」とし、子実水分14%程度に仕上げましょう。

次年度対策

① 土づく

- ・近年の収量低迷やしわ粒の発生などは、地力の低下も大きな要因と考えられます。
堆肥の施用や緑肥作物(ヘアリーベッチ等)の作付け・鍍込みにより、収量や品質の向上を図りましょう。
- ※ヘアリーベッチの播種(3～4kg/10a)は、10月上旬までに行い、しっかり排水溝を設置しましょう。



② 排水対策

- ・次年度の作付予定地には、年内に額縁排水溝を設置しましょう。